２０２０年度『心理・教育実践学入門 I』

担当教員：　野村 泰朗
授業に関する問い合わせ：class2020-help@nomura-lab.org
野村研究室：教育学部 H 棟 1 階 H102
OfficeHour：原則毎週水曜１限
※原則，事前にメールにてアポイントを取ること

この授業のねらい
将来の研究室所属，研究対象や研究方法の選択に活かせる情報を得る。具体的には次の通りである。
□ 野村研究室の得意とする研究手法について知る
□ 野村研究室で現在取り組んでいる研究課題について知る
□ なぜ野村研究室は「心理・教育実践学講座」の研究室であるか知る

１．研究の基礎～教育工学～

野村研究室の，研究手法＝研究方法論は，**《教育工学》**に基礎をおいています。教育工学とは，例えば坂元(1991)は次のように定義しています。

> 教育工学は，教育過程の改善を具体的に実現することに関する技術学である。教育目標を効率的に達成するために，教育過程をシステムとしてとらえ，
> （1）構成要素の最適な組み合わせを追求し，
> （2）それに役立つ各種技法，道具，しくみを開発，利用し
> （3）これら，技法，道具，しくみを体系化する。
> これら3つの課題を，設計，実行，評価を繰り返しつつ，システム的に研究開発する。

実際に，「(1)～(3)の課題を，設計，実行，評価を繰り返しつつ，システム的に研究開発する」ためには，教育学，教育方法学，教育心理学といった，教育学部におなじみの学問分野だけでなく，システム的に対象をとらえる視点としての情報科学，システム工学，情報工学といったシステム・情報系分野や，さらに人の特性を理解するための認知発達心理学的視点，理念や未来像を描く哲学や倫理学などまで，人に関係するあらゆる分野の知見を**「(より良く）組み合わせて」**，**《教育》**によって社会の様々な課題を解決できる**「(より良い）最適な」**解決策を探求することを目指すのが**《教育工学》**の姿勢です。

ですから，**《教育工学》**とは，学問領域を指すというだけでなく，問題に対するアプローチの仕方の一つとして捉えると分かり易いでしょう。扱う対象は，**《教育》**によって解決できる社会にある課題全般であり，教育学部の全ての学問分野における問題解決の考え方として適用可能な「考え方＝研究方法論」の一つなのです。

ここで重要なことは２つあります。まず，**《教育》は目的ではなく手段である**とい

うことです。坂元の定義における「教育課程の改善」は，前提として，「〜ができるようになりたい」，「〜で失敗しないようにしたい」など，常に教育には目的があり，目的達成のための手段として「学習者が何をどのように学べばよいか」，また周囲の人は「どのように関わればよいか」「何をどのように指導すればよいか」といった教育の内容，方法，仕組みを考える必要があり，それを考えることこそが教育研究だと考えています。「いじめや不登校をなくしたい」といった課題も，本質としては「いじめを回避しながら〜できるようになりたい」，「特定の人とだけ会って〜できるようになりたい」という目的があり，それらを学習者が実践できるためにどのような教育内容，方法，仕組みであればよいかを考えることが大事であり，いじめや不登校をなくすことが本質的な問題ではない点に着目できるかが大事でしょう。つまり本当に目指すべき目的が何なのかを一歩深めて柔軟に考えられることが必要です。

もう１つは**研究における《よさ》**，すなわち研究価値を常に意識することです。別に，特別なことを言っているわけではなく，研究とは，常に研究目的（目標）を明確にして，その達成を可能な限り厳密に評価していくことが大事です。特に，「システム的な研究開発」を行っていく上では不可欠です。その評価手段としては，単に文献等による傍証だけではなく，実際に心理学的，科学的な評価実験や統計学的な調査などあらゆる方法を用いて，客観的に実証していこうとする姿勢を重視します。(教育）心理学は，人間の特性を科学的に知ろうとする学問分野の一つですが，教育研究においては，問題の解決策を検討する材料の一つでしかありません。もちろん心理学は学習者の実態を知り教育方法を考える上で大事な知見ですが，人間とは非常に複雑なものであり，また個別的なものです。教育もまたしかりです。単純な統計的分析にとどまらず当事者の声に耳を傾けていく新しい研究手法が求められていおり，人工知能研究の分野では「１人称研究」といった新しい研究手法が模索されています。つまり教育や人間を対象とした研究方法は，まだまだ確立しているわけではなく，研究目的を達成できるための研究方法を様々に考えていくことが大事です。

２．心理・教育実践学講座と野村研究室

野村については，情報基礎を担当する点が最も印象に残っていると思われますが，野村研究室で研究している対象は，実際には非常に多岐に渡ります。大きく分けると，ア）教師教育の中でも授業設計論，教材開発論と授業設計訓練手法に関する研究，イ）初等中等教育だけでなく高等教育における情報教育の内容と方法に関する研究，ウ）ロボットづくりなどのものづくり活動を通した教育の意義，内容，方法に関する研究〜STEAM 教育，プログラミング教育，エ）学習支援システムやロボット教材の開発，ヒューマンインタフェースの研究，さらに最近では，オ）特別支援教育，不登校問題等生徒指導生活指導に関する研究，カ）ボランティア活動，NPO 活動などの組織運営に関する研究，キ）安全教育，情報モラル教育，道徳教育，ク）学童保育等保育のあり方に関する研究など，多様な価値，多様な文化の中での教育のあり方に関する研究，などが行われています。

一見，他の教員と比べても異質に感じられる研究内容ですが，そんな野村研究室の，心理・教育実践学講座の中での位置づけを「研究方法」の側面から捉えると次のように言えるでしょう。

> 教育過程をシステム的に捉え，教師のあらゆる教授活動に役立つように，
> (a)**《臨床の知》**としての実践知を，いかに伝達可能な形で蓄積し，
> (b)蓄積された知（情報）を，**教師の教授活動を支援可能な形**で提供するために
> **システム化**を通して，その**〈見方考え方〉**を**〈モデル化＝一般化〉**することを目指す。

システム化とは，なにもコンピュータを必ず使って開発するという意味ではなく，物事を体系的（「システム」の原義）にモデル化（定式化）して伝達可能な形で表現する，という意味で，そのためにあらゆる手段をうまく組み合わせて使おうとするのが工学的な手法ということです。時には，言葉で説明するだけでも十分でしょうし，場合によっては，具体的な教材を提示したり，コンピュータの力を借りた学習システムを開発することも必要でしょう。例えば，野村研究室では，特にア）イ）ウ）オ）キ）ク）等教育方法の研究テーマでは，コンピュータの力を借りることで，そのモデル化（定式化）がスムーズに行くと考え，最終的には，教員養成に役立つ図１のような教授活動訓練支援システムを想定しながら研究を進めています。

方法論としては，工学的な問題解決手法を用いつつも，純粋工学研究や従来の教育学が取ってきたような研究室内にとどまる活動ではなく，実際に教育現場に開発したシステムを持ち込み（＝臨床的，実践的），実践や実験を通して実証的に研究する点が，野村研究室の特徴です。これがまさに**「臨床的，実践的に研究する」**ということでしょう。これは別の視点から捉えると，単なる参与観察，フィールドワークから一歩踏み込んだ**アクションリサーチ**の手法を現場に取り入れて行こうということでもあります。これは今日的な教育研究法の課題である，量的研究と質的研究の融合を目指すことでもあります。

あらゆる場面において，自分たち自身が，実践してみたくなる研究，実際に現場に出た時に役立つ研究を一緒に作り上げて行くことが，野村研究室の指導方針です。

３．野村研究室で学べること

研究においては，もちろん研究テーマ自体の新奇性，独創性も大事ですが，それと同じくらい，いかに第３者に自分の考えを伝えるかという方法を工夫することが大事です。そして，そのためにも，教育工学的なアプローチにより，あらゆる手段を使うこと，使おうとする姿勢を持つことが必要です。

> **研究の《よさ》＝**
> **新規性，独創性＋伝達性（分かりやすさ＋説得力＝研究手法の工夫）**

そのために，研究室では，まず教育を対象とする研究の分野である人文社会科学の「研究法」について，テキストを使いながら主な研究手法を学びます。次に，心理学，

教育方法学の基礎基本となるテキストを用いて，教育研究の基礎となる理論や事例を学びます。さらに，各自の興味関心に合わせて個別に研究を進めて行くことになります。以上の流れで，２年生から４年生まで段階的に，積み重ねによって，学校教育臨床的な視点，教育工学的な視点の獲得と深化を目指し，学校教育臨床における専門性を高めてもらうことを意図しています。

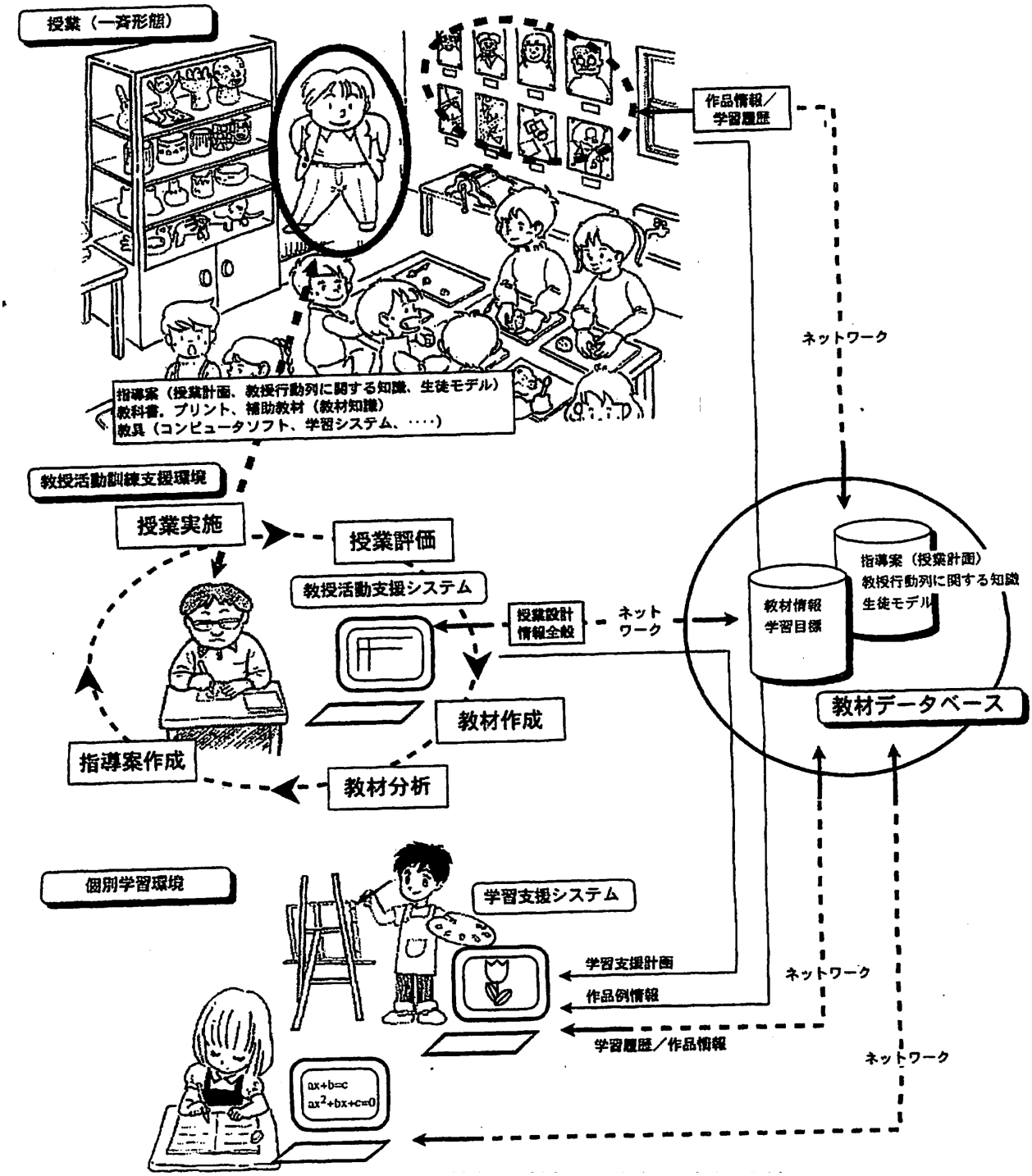

図１　教師の教授活動訓練支援環境

○次週（6/24）までの課題

次週までに，各自が持っている問題意識を（教育分野でも構いませんし，それ以外の例えば歴史や哲学でも，臨床心理でも，福祉でも，芸術でもなんでも構いません。）何か一つ取り上げて３枚のスライドにまとめてきてみてください。野村研究室では卒論では研究分野を特に問いません。大事にしたいのは，問題意識と解決方法です。自分の関心のあることについて，より具体的に，解決するための研究計画をどのように立てればよいか「教育工学的」に考えて PowerPoint で３枚程度にプレゼンの形でまとめてきてください。手書きでも構いませんが，その場合はなんらかの方法でデジタル化しておいてください。次週，プレゼンしてもらいながら，みなさんの興味関心と研究室とのマッチングに役立つ意見交換をしたいと思います。

研究計画をまとめるにあたって次のような項目に分けて考えてみてください。

１．研究の背景
- ・問題意識は？問題の本質はどこにある？
- ・また，その問題意識を持った背景として，どのような社会現象や問題，他の研究者の成果に着目したのか？どのような個人的な経験に根ざしているのか？
- ・問題意識が，ごく個人的なものではなく，どのような点で研究価値があるのか？社会におけるニーズは？社会への影響の可能性は？
- ・その問題が解決できると，どのような人にどのように役立つのか（誰がどのようにうれしいのか）？

２．研究の目的
- ・問題の全体像や構成要素は何であり，この研究ではどの部分を扱うのか（全部解決したいのか，それとも部分的に解決したいのか）？
- ・研究の成果として何を生み出すのか（理論や考え方，手法，調査データ，モノ（教材やカリキュラム），仕組み）？
- ・何ができたことによって研究は完成（終了）するのか？（真偽が確かめられたら？，効果が証明できたら？，モノが動作したら？）

３．研究の方法
- ・どのような研究方法を取るのか（質問紙調査，フィールドワーク，アクションリサーチ，実験と観察・模擬授業，モノの開発，文献調査など）？
- ・場合によっては，いくつかのサブゴール（副目標）に分けて，段階的に解決することが必要な場合もある。それの場合は，どのような手順で解決していくことが合理的か？
- ・実験や調査によって得られたデータは，２．や３．の２点目のどの目的達成のためにどのように役立つのか？（何のためにその実験や調査をするのか）
- ・開発研究の場合，研究を行う上で，どのようなシステムを開発するのか？または，既存の技術，道具，しくみをどのように組み合わせて，目的のモノを開発しようとするのか？
- ・調査研究の場合，どのような質問紙や実験内容・手順を用意したり，観察のためのフィールドを選んだりして，解決に利用しようとするのか？